

共用品推進機構だより 2016年09月09日(23)

目次

(108) 共用品推進機構関連記事

「掲載日変更のお知らせ 日本経済新聞『モノごころ ヒトがたり』」

▽「コントラストと黑白コピー／星川安之」

(109) 賛助会員ニュース

▽「『2016年 白星会 秋の講演会のお誘い』のお知らせ／後藤芳一氏」

(110) サービス関連記事

▽「難聴の人向けに 対話支援機導入／北国銀行」

▽「IoT使って『見守り』／エスト」

(111) 新刊紹介

▽『特別支援教育の指導法 第2版』

▽『言葉・動き・音楽による表現の実践的研究』

▽『知的障害・発達障害のある子どもの住まいの工夫ガイドブック

危ない！困った！を安全・安心に』

(108) 共用品推進機構関連記事

▼「掲載日変更のお知らせ 日本経済新聞『モノごころ ヒトがたり』」

先週の編集後記で、9月3日(土)の日本経済新聞夕刊から、月1回、「モノごころ ヒト語り」という連載タイトルで、エッセイを行うとお知らせしましたが、紙面の都合上9月10日(土)に変更になりました。

みなさま、どうぞご覧ください。

▼「コントラストと黑白コピー／星川安之」

色は、地の色とその上の字や絵の色の違いで見やすかったり、見づらかったりもします。黄色の地に白色の字や、赤色の地に黒色の字では、地と字の色を識別して読むことが困難です。この差を大きくし、黒の地に白、黄色の地に黒など、字や絵を書くと、多くの人には「地」と「字」を区別して読むことができます。この「地」と「字」の差をコントラストと言います。

コントラストの違いを簡単に確認するには、コピー機で対象となる紙を黑白で印刷することです。色付きだったものが、濃淡を交えた黑白の用紙に変わります。黑白に変わっても、色の濃淡で識別できれば、その色のコントラストが異なっていることになります。

色弱の人の中には、世の中を黑白コピー機で印刷したように見えている人もいます。その人たちにとっては、色のコントラストを明確にすることは生活していく上で重要です。

黒と赤のサインペンは、同じ色に見える人の場合、サインペンの蓋の色では区別できません。

そのため、サインペンに、それぞれ黒、赤と書かれていると、今どちらの色で書いているかが分かります。便箋も、罫線が薄いと見づらく、書いている文字が行をはみ出してしまいます。これもコピーすると、見える罫線かどうか分かります。

作成する色付の印刷物を大量に印刷する前に、黑白のコピーで確認することをお勧めします。

(シルバー産業新聞 9月10日15面より抜粋)

(109) 賛助会員ニュース

▼「『2016年 白星会 秋の講演会のお誘い』のお知らせ／後藤芳一氏」

開催日：2016年10月8日(土)

時間：15:00～17:00(終了後に懇親会あり)

会場：東京工業大学大岡山キャンパス西5号館

レクチャーシアター(W531講義室)

http://www.titech.ac.jp/about/campus/o_map.html

講師：東京大学教授・パラマウントベッド取締役・フジキン顧問

後藤芳一氏（1978年 東京工業大学工学部機械学科卒）

テーマ：「日本のものづくりの未来を考える」

略歴：1978年東工大機械卒、1980東工大院修了、通産省入省大臣官房審議官。退官後大阪大学教授を経て現職。経産省在職中に「医療・福祉機器産業室」を創設し新産業を育成。

内容：高齢化著しい日本では、身体機能低下にともない目が見えにくくなったり、車いすを使う方々が増えています。障がい者も高齢者も若い人も皆が同じ製品を利用できる。そんな"ものづくり"がこれからの日本に求められています。きめ細かい配慮が得意な日本の文化が世界を変える？途上国からの追い上げで苦勞している日本の製造業が生きる（活きる）道はここにあるかもしれません。

（工大祭期間中の一般公開ですので、蔵前会員/会員関係者の他、どなたでも聴講いただけます）

懇親会

場所：東工大生協第一食堂2階（パーティールーム）

懇親会費：3,000円（学生無料）

申込み：氏名、卒年・学科、ご連絡先（メールアドレス、お電話番号等）

を添えて下記の白星会事務局まで申込む。

白星会事務局：E-mail：hakusei@mech.titech.ac.jp

TEL&FAX：03-5734-2635

http://www.mech.titech.ac.jp/~hakusei/kouenkai/kouenkai_kaikoku20161008.pdf

（110）サービス関連記事

▼「難聴の人向けに 対話支援機導入／北国銀行」

北国銀行は耳が聞こえにくい来店客向けに対話支援機の導入を始めた。接客する行員がマイクを付けて、音声を難聴者が聞き取りやすいように変えてスピーカーで流す。10店に設置、顧客の評価を聞きながら増設も検討していく。

設置したのは「COMUOON(コミュニケーション)」と呼ぶ機器。高性能マイクとスピーカーで構成し難聴者はカウンターに置いたスピーカーを通じて内容を聞き取る。行員が大きな声を出さなくても意思疎通しやすくなる。

(日経MJ 9月9日11面より抜粋)

▼「IoT使って『見守り』／エスト」

情報通信機器のエストはモノがインターネットにつながる「IoT」機器とクラウドサービスを使った高齢者見守りサービスを始めた。室内に設置した機器がセンサーで人の動きや温度などを感知し、ネットを通じて離れて暮らす家族などに情報を送る。家族はスマートフォン(スマホ)で状況を確認できる。

名称は「お部屋の見張り番 CS-500」。高齢者が緊急ボタンを押した際は、自動でメールや電話で指定した連絡先に連絡する。事前に設定した室温を超えた場合にはスマホから遠隔でエアコンを操作できる。

(日経MJ 9月9日11面より抜粋)

(111) 新刊紹介

▼『特別支援教育の指導法 第2版』

個別の指導計画と授業、視覚・聴覚・知的障害や肢体不自由、高機能自閉症等の指導など、特別支援教育の指導法について解説。最新の動向を整理し、新たに提起された課題を踏まえて内容を充実させた第2版。

編：筑波大学特別支援教育研究センター 安藤隆男（あんどう・たかお）

発行：教育出版

本体価格：2400円（税別）

ISBN：978-4-316-80414-9

▼『言葉・動き・音楽による表現の実践的研究』

オルフと知的障害者（青年）の音楽活動の分析による身体の動きは音楽とどのように繋がっているのだろうか。カール・オルフの音楽と動きの活動、及びオルフ教育を適用した知的障害者（青年）の曲づくり・動きづくりの過程を、音楽教育学の立場から分析する。

著：下出美智子（しもで・みちこ）

発行：風間書房

本体価格：6000円（税別）

ISBN : 978-4-7599-2139-7

▼『知的障害・発達障害のある子どもの住まいの工夫ガイドブック
危ない！困った！を安全・安心に』

リハビリテーションセンターの建築士と発達を専門とする精神科医による新提案。知的障害や発達障害のある子どもが家庭生活のなかでしばしば示す問題を取り上げ、それらを少しでも解消し、安全・安心に暮らすための工夫を紹介。

著：西村 颯（にしむら・あきら） 本田秀夫（ほんだ・ひでお）

発行：中央法規出版

本体価格：2400 円（税別）

ISBN : 978-4-8058-5382-5

（編集後記）

今年はかなり自然災害の影響を受けている年ですが、改めて災害に備えた備品等のチェックをするにあたり、モノもさることながら、近所の人達とのコミュニケーションの大切さも感じます。普段は挨拶程度ですが、天候が安定していない時などは、お互い知っている情報を伝え合うこともあり、その一言でホッとしたり用心したりしています。情報の大切さを感じる瞬間でもあります（森川美和）

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>